



ベトナム ホーチミン

ベトナムの 若い社員とともに



インテックベトナム 会長
林 道雄

IT業界におけるベトナムの魅力は何といつても若さと、相対的に安い労働力だ。インテックベトナムではこれを生かして業務を行っている。

まずはシステムの保守メンテナンス。最近では、ルネサス エレクトロニクス 株式会社向けの保守メンテナンス体制がスタートし、11月からは開発業務へと拡張した。まだ日本のような経験や実績はないが、お客さまにはベトナムの将来性を期待していただいていると確信している。

次にシステムの監視業務。インターネットVPNで日本と結び、金融系システムの監視やデータ処理を行っている。さらに、規模としてはまだ小さいが日本からのオフショア開発にも力を入れている。

また、ベトナムではホームページデザインなどのデザイン面、ネットワー

ク設計や敷設などのインフラ面の人材がとくに不足しており、ベトナムに進出する日本企業に対してインフラ面を含めたITサポートを行っている。

プロとしての心構え ビジネスの常識を鍛える

これらの業務を支える社員の多くは4年制大学や大学院で実践的なITのコースを卒業してきた若者たちだ。彼らの多くは日本企業の仕事の仕方をも身につけたいと思って応募して来た。日本文化や日本企業の品質、サービスの高さはベトナム人に非常に評価が高い。また、インテックベトナムはまだまだ小さいので、会社が大きくなったときに自分が幹部候補になれると考えて応募して来た。若手頭でつかな傾向のある彼らのキャリア形成には、プロとしての心構えやビジネスの常識を鍛えることがITの技術を習得すること以上に重要であると考えている。挨拶の励行、時間の厳守、約束の厳守、ハウレンソウ、カイゼンなど日本の企業文化を現地にあわせアレンジしつつ定着させようと努力している。

自分に今できることを考える

他国で事業をさせていたでいるという思いから、インテックベトナムでは社会貢献活動も積極的に行っていると考えている。そこで、ベトナムに数多く存在する孤児院に定期的に訪問し、寄付やボランティア活動を行っている。

ITの大学を卒業した社員たちはベトナムではどちらかというと富裕層だ。しかしまだ小学校に行かない子どもや高等教育を受けられない子どもが大勢いるのが現実である。社員にそのことを実際に体験してもらって、自分はその中で何ができるかを考えてもらうのも大切な社員教育であると考えている。

将来の夢や10年後の目標を書いてもらうと「会社を作って大金持ちになり、孤児院などを作る基金を作りた」といった夢を語る社員がとくに女子社員に多い。大金持ちになつてからの活動も重要だが、今ここで、自分の実力で何かできることはないか考え実践していく、そのような能力を社員とともに培ってきたいと思う。